

機関番号:12603

研究種目:基盤研究(C)

研究期間:2008~2010

課題番号:20520489

研究課題名(和文)

日本語母語話者による正則アラビア語の語彙習得に関する研究

研究課題名(英文)

Studies on Learning Vocabularies of Modern Standard Arabic by Japanese Speaking Learners

研究代表者

榮谷 温子 (SAKAEDANI HARUKO)

東京外国語大学外国語学部・研究員

研究者番号:30376826

研究成果の概要(和文):

アラビア語の「語根」の概念に着目し、語根を鍵としてアラビア語語彙習得の過程を明らかにし、より望ましい語彙教授法を見出すことを目的に、国内外のアラビア語の入門書、教科書を入手し、語彙習得の観点から分析。語根に積極的に着目した語彙指導の少ないことを指摘した。また、使用頻度の高い語彙や連語、熟語を選定し、特に初級学習者を対象とした、ワード・リストを作成し、語根ごとのグループ化を行なった。

研究成果の概要(英文):

Focusing on “roots” in Arabic, Elementary Arabic textbooks published in Japan and other Arab countries are analyzed from a viewpoint of the “roots” to make process of learning Arabic vocabularies clear, however, there are few examples of teaching Arabic vocabularies based on the notion of the “root.” Then Arabic words, collocations, idioms which are high frequency in use are selected to draw up the word-list for learners of Elementary level, and also they are divided into groups based on their roots.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2730,000

研究分野:アラビア語学

科研費の分科・細目:言語学・外国語教育

キーワード:第二言語習得理論、アラビア語、語彙習得

## 1. 研究開始当初の背景

(1)アラビア語の単語は、通常、語根と呼ばれる主に3つの子音(ただし、数は少ないものの2つや4つの場合もある)を核として、そこから派生するものである。しかし、日本国内において、語彙習得のためのアラビア語単語集は、アルファベット順配列か、分野別かに限られており、積極的に語根の概念を生かしたものが見当たらない。

(2)また、アラビア語の入門書においても、文法事項の指導においては、語根の概念をはっきりと打ち出しているにもかかわらず、単語指導にその視点が活かされていなかったと言える。

(3)辞書では、語根別配列が一般的であるが、初級学習者が好んで利用するのはアルファ

ベット順配列の辞典であり、辞書の構成だけでは、語根の概念を生かした語彙指導は困難である。

## 2. 研究の目的

語根と語の関係に着目し、望ましいアラビア語の語彙指導法を見出す。

(1) 学習者が習得すべき、使用頻度の高い単語及びその他必要とされる単語の、コーパス等に基づいた選定。

(2) 語彙習得における辞書の役割、具体的には、語根別配列辞典とアルファベット順配列辞典との相違の解明。

(3) 単独の単語だけでなく、イディオム（熟語）やコロケーション（連語）のデータ収集およびその習得過程の解明。

(4) 不規則複数や不規則動詞等、形態論レベルの習得過程の解明。

(5) 学習者が習得した語彙の運用能力を身に付ける過程の解明。

## 3. 研究の方法

(1) 語彙習得の関連分野の文献の収集。アラビア語の語彙習得に限定せず、日本語、英語等の専攻研究も幅広く視野に入れることとした。

(2) データ収集の素材となる発行物（書籍、新聞、その他）の収集。既にウェブ公開されているアラビア語コーパスの情報収集を行なう。

(3) アラブ諸国のうち、留学生を多く受け入れているアラブ国のアラビア語教育機関を訪問しての情報収集。具体的にはカリキュラム問い合わせや使用教材などを収集する等である。

(4) さらにそうしたアラブ諸国において、語彙習得関連文献を収集する。また、アラビア語教育の専門家に意見を仰ぐ。

(5) 単語や熟語、連語のデータ処理等の段階における、アラビア語話者への意味合い等の確認を行なう。その他の点に関しても、意見交換等を行なう。

## 4. 研究成果

(1) 従来、単語は文脈の中で提示し、その意味を推量させながら習得させていくことが望ましいとされてきたが、英語に関する先行研究では、読解と文脈による推量のみで、例

えば2,000語を習得するのに掛かる時間は、約29年という推計がある。さらに、アラブ諸国で用いられている教科書では、文脈を重視したものが多く見受けられるが、日本国内のアラビア語入門書では、紋切り型の例文が多く、文脈に依存する語彙習得は難しいのが現状である。

授業でのフラッシュカード、自宅学習での単語カード等を用いた単語暗記は、効率の良い語彙習得に不可欠であることを示し、機械的と敬遠されがちなカード類を使用した単語習得の方法を、認知心理学に基づいた、Mondria& Mondria-de Vries (1994)の提唱を踏まえて提案。

さらに、上記のことを踏まえ、人間の忘却のメカニズム等に応じた、単語学習用のコンピューター・プログラムの可能性を模索。

しかし同時に、アラビア語の単語と日本語の単語に1対1の関係があるかのような意識を、学習者に持たせない必要性も強調したいところである。特に語用論的なレベルでは、単語そのものの意味だけでは、意思伝達が困難な場合がある。

リーディングによらない単語習得が必要とはいえ、文脈の中でのそれぞれの単語の働きの実際を見せる必要はあり、学習者へのインプットは多い方が好ましい。

(2) 収集データや先行研究から、学習者に習得させることの望ましい単語のリストを作成。基準として、使用頻度が重視されるのは当然であるが、機械的に一律に頻度数だけで対象単語を決定するのではなく、例えば、暦の月の名前等、セットでいくつか覚えるべき単語などは、揃えて収録することとした。

ただし、学習者のレベルが上がるとともに、学習者の読みたい、あるいは聞き話したい分野に応じた単語リストが必要となる。特に、アラビア語を用いて、自らの専攻分野の研究に役立てたい場合である。そうした学習者のニーズに応えることは、教師側の職務のひとつであり、これは今後の重要課題である。

(3) 初級学習者向けのアルファベット順配列辞典や、近年いくつか公開されたオンライン辞典では、語根を意識しなくとも語の意味を知ることができる。

これには、アラビア語を学び始めのまだ初歩の段階では、語根の概念を習得するに至っておらず、語根順配列辞典を使いこなせない、或いは使えない状態であるという事情があ

る。

ただし、紙媒体のアルファベット順配列辞典は、不規則複数の複数形や動詞の活用形には対応しておらず、紙媒体辞典を使う限りは、いずれは語根別配列辞典を手にとらざるを得なくなるはずであるが、オンライン辞典は、複数形や動詞活用形にまで対応しており、総合的には学習者の学習における負担が減ることとなった。しかしそれは、語根の概念をさらに一層、疎かにするものであり、一長一短である。

とはいえ、学習者へのアンケートからは、学習者たちが、アルファベット順配列辞典やオンライン辞典を積極的に活用しており、さらにはそれによって、語根別配列辞典を用いるよりも、アラビア語の学習が容易になったと考える傾向が見て取れた。

語根の概念を生かした語彙指導が望ましいとはいえ、学習者にとって使い勝手の良いツールを奪うようなことはしてはならず、葛藤を感じる問題である。

(4) 上記(2)のリストを、語根を基盤としてグループ化し、アラビア語教育特に語彙指導に役に立つかたちに纏める。語根の概念を生かした語彙学習の指導においては、形態論的な観点から、複数形（特に不規則複数形）や動詞等の活用形にも注意を払うべきであり、単なる単語習得ではなく、形態論レベルでのアラビア語の習得が目標のうちに含まれることとなる。

アラビア語の単語のこうした変化形の多さも、単語習得の鍵であり、語彙指導は、文法教育と密接に関わる部分があると言える。日本国内において、アラビア語教育は、文法訳読方式によっている場合、さらには文法（特に形態論レベル）偏重ともいえる例が多いが、時間の許す限り、そこに単語指導を適切な形ではめ込んでいくことが望まれる。

語彙指導に有利な、文法項目の提示順なども検討することが必要であり、試案を入門書にまとめてみたものの、まだまだ改善の余地が残されていると感じている。さらに語彙習得を意識した文法入門書を執筆する計画がある。

(5) 単語にも言えることではあるが、特に、イディオム（熟語）やコロケーション（連語）の習得においては特に、母語すなわち日本語からの「転移」の問題が無視できない。すなわち、習得を促進するところの「正の転移」と、母語が干渉してしまうところの「負の転

移」である。

日本語とアラビア語に共通の表現であったとしても、必ずしも簡単に会得されるものではない。無標的なものは転移しやすく、有標的なものは、転移を起こしにくいのであり、単純な対照分析だけでは、習得の容易さ乃至難しさを予測することはできない。

この点に関しては、個々の熟語、連語について検討がまだまだ必要である。また、語根の概念と熟語、連語の習得との関連性は、十分に吟味されたとは、遺憾ながら言い難い。

いずれにせよ、熟語や連語の場合も、相応のインプットの重要性が指摘される。

(5) 語根との関連ではないが、アラビア語の語彙習得について、初級学習者には、アラビア文字習得が語彙習得と密接に結びついていくことが明らかとなった。

従来、アラビア文字指導は、文法指導に入る前に、文字の書き方と読み方をまとめて教え、以後、フォローのないのが普通であるが、文字の連なりを単語として認識するためには、文字の指導を断続的に続けることが必要である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

①榮谷温子、アラビア語教育における文字指導、外国語教育研究、査読有、14巻、2011年10月乃至11月（印刷中）

②谷口龍子、榮谷温子、アラビア語のエジプト方言における詫びおよび感謝表現の語用論的機能、留学生センター教育研究論集（横浜、横浜国立大学留学生センター）、査読有、19巻、2011年、29-38頁

③榮谷温子、アラビア語辞典の語根別配列とアルファベット順配列——語彙習得の観点から、外国語教育学会、査読有、11巻、2008年、90-100頁

〔学会発表〕（計2件）

①榮谷温子、アラビア語教育における文字指導、外国語教育学会、2011年3月1日、東京学芸大学

②榮谷温子、The aspect of gender in Arabic textbooks used in Japan、The First International Congress on Arabic & English Applied Linguistics and Rhetoric & Writing: Challenges in Teaching Language and Rhetoric、2009年3月25日、The American

University in Cairo

〔図書〕（計4件）

- ①榮谷温子、東京外国語大学出版会、はじめましてアラビア語 2011年度版、2011年、227頁
- ②榮谷温子、東京外国語大学生協同組合出版部、はじめましてアラビア語【改訂版】、2010年、227頁
- ③榮谷温子、東京外国語大学生協同組合出版部、はじめましてアラビア語、2009年、219頁
- ④小杉泰、林佳世子、東長靖（編）、名古屋大学出版会、イスラーム世界研究マニュアル、2008年に所収の、榮谷温子、研究案内：道具類：語学：アラビア語、32-41頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

榮谷 温子 (SAKAEDANI HARUKO)

東京外国語大学外国語学部・研究員

研究者番号：30376826